

Q&A

インフルエンザ予防接種について

インフルエンザ予防接種

当院では本年もインフルエンザの予防接種を実施しております。ご希望の方は可能な限り事前にお電話又は受付にてご予約下さい。ワクチンについて以下簡単にまとめましたのでご参考にしてください。ご不明な点などございましたら遠慮なく医師にお聞きください。

インフルエンザってなんですか？

インフルエンザはウィルスによる感染が原因でおきる病気です。一般的には冬場に流行し、突然の熱、寒気、倦怠感、筋肉痛、咳、咽の痛みなどの症状がでます。通常3～7日間で治りますが、老人または慢性の病気がある人は肺炎などの合併症が出る事があります。また小児では脳炎、脳症が希におきます。

インフルエンザはどのように診断しますか？

上記のように「風邪」とよく似た症状が多いので、確実に診断するのが難しいこともあります。鼻、喉より綿棒で採った検体にウィルスが存在するかどうか検査する方法もありますが、検査実施のタイミングによって実際インフルエンザに罹っていても陰性に出る事もありますので、症状等を総合的に評価し、診断します。状態によっては検査せずにインフルエンザと診断し、治療することも可能です。

今年のインフルエンザワクチンはどのようなワクチンですか？

本年のワクチンは例年通り注射剤の不活化ワクチンですが、今までの3価よりA型2種類とB型2種類の4価となりました。ここ数年輸入しておりました経鼻の生ワクチン（フルミスト）は効果が劣るとのデータが最近発表され、現在使用が推薦されていないため、当院でも今年は使用しないこととしました。

インフルエンザワクチンは誰がうければいいのですか？

当院では生後6ヶ月以上の全てのかたに接種をお勧めしております。慢性の病気（肺の病気、心臓病、糖尿病など）をお持ちの方、またそのような方と生活されてる方、乳幼児・小児、高齢者、妊婦、医療施設で働く方などは特にお勧めします。

ワクチンの効果は？

流行するインフルエンザのウィルスは毎年微妙に変わります。従って流行すると予想したウィルスをもとに作られたワクチンが必ず今年のウィルスに100%効くと言うことはありません。ワクチンを接種したから今年は絶対かからない、と言うことではありませんが、重症化・合併症等の確率を下げる効果はあると思われます。

「鳥インフルエンザ」や風邪の予防には有効ですか？

鳥インフルエンザ（H5N1）は異なったウィルスによる病気なので効果は期待出来ないとされます。また一般的な「風邪」の予防にはなりません。

インフルエンザワクチンは何時、何回接種するのですか？

原則として13歳未満は2回必要と言う見解が多いようです。13歳以上のかたは1回接種が良いと思われれます。当院では相談のうえ回数を決めるようにしておりますが、接種は12月までに完了された方が良いでしょう。

ワクチンを接種できない人はいますか？

ワクチン製造の過程で卵のタンパク質が微量含まれますので強い卵アレルギーの方は接種しない方がいいでしょう。また、以前インフルエンザワクチンにアレルギー反応があった方、接種当日に高熱のある方なども接種はさけた方がいいでしょう。

副反応はありますか？

一般的には副反応は稀で、接種部位の一時的な痛み・腫れ等が主です。熱、筋肉痛、倦怠感などの全身性の反応も見られますが、1～2日で治まります。ワクチンに対するアレルギー反応、神経系の副反応は極めて稀ですが、全くないとは言えません。

接種の費用はいくらですか？

通常の注射のワクチンは13歳以上1回¥3,500、13歳未満1回¥3,000です。1～15歳の世田谷区民は区より1回¥1,000の助成があります（1～12歳は2回、13～15歳は1回分）。65歳以上の区民は¥2,500のご負担にて接種可能です。

インフルエンザに効く薬はありますか？

季節性インフルエンザ用の抗ウイルス薬は飲み薬、吸入薬、注射剤等いくつかあります。罹ってから48時間以内に使用すれば症状が出る日数を1日ほど減らす効果がありますが、それ以降は効果は無いようです。もともと健康な人は薬を服用しなくても殆どの場合問題なく回復します。また、抗ウイルス薬の服用にてインフルエンザに合併する肺炎、脳症などを予防できるという確固たる証拠はありません。副作用も希にあり、最近、薬への耐性を持つウイルスの出現が報告されているので使用に関しては慎重に判断する必要があります。
